

平成18年度 財政援助団体監査結果(指摘事項)に基づく措置状況等の報告

- 1 監査の種類 財政援助団体監査
- 2 監査対象 四日市市燃料電池実証試験補助金交付団体
シャープ株式会社
四日市市商工農水部 商工課(財政援助に関する事務の所管課)
- 3 監査実施期間 平成19年1月25日、平成19年1月30日
- 4 監査結果報告 平成19年3月30日

監査の結果(指摘事項)

措置(具体的内容)・対応状況

【商工課】

<p>(1)補助金交付要綱の例規集への掲載について 当該補助金は「四日市市燃料電池実証試験補助金交付要綱」に基づき交付されているが、例規集データベースへの掲載がされていない。当補助金制度は平成18年度で終了するが、関係団体や市民に対して広く周知することが望ましいので、今後同様の要綱が制定されるときはその要綱の例規集への掲載を行なうこと。</p>	<p>【 検討中 】 平成19年 6月12日 平成19年度より、「燃料電池関連周辺機器開発補助制度」を創設する予定であり、当該補助制度に基づく要綱については、例規集データベースへ掲載し、関係団体や市民に対して広く周知する事とする。</p>
---	---

平成18年度 財政援助団体監査結果(所見)に基づく措置状況等の報告

- 1 監査の種類 財政援助団体監査
 2 監査対象 四日市市燃料電池実証試験補助金
 シャープ株式会社
 四日市市商工農水部 商工課(財政援助に関する事務の所管課)
 3 監査実施期間 平成19年1月25日、平成19年1月30日
 4 監査結果報告 平成19年3月30日

監査の結果(所見)

措置(具体的内容)・対応状況

【シャープ株式会社】

<p>(1)地域産業の発展への寄与について 当概事業について各テーマ別に実証試験を実施し、それぞれの実験結果において一定の成果は認められるが、補助金交付要綱第3条の補助金対象者の条件でもある「本市産業の発展への寄与」に関しては、四日市工業高校での普及啓発活動のみであった。当該補助金の対象事業を実施している他の企業とも連携を図り、市全体の実証試験の成果として研究開発の拠点化やさらには部材開発における関連産業の集積等、地元産業の発展につながるような事業展開を期待する。</p>	<p>【 継続努力 】 平成19年 9月28日 部材開発については、当社が使用した燃料電池は他社からの購入品であったため、積極的に行なえる立場ではなかった。一方、システムの運用方法などについては、四日市市内の企業との協業を試みたが、実施には至らなかった。 今後も、実証試験の成果を踏まえ、三重県科学技術振興センター(@阿倉川)との情報交換、共同実験などを行なっていきたいと考えている。</p>
<p>(2) 実験装置の稼働率について 当該燃料電池実証試験システムの計画運転時間に対する稼働率が46%ということであったが、いかに実験とはいえ不十分な数字であり、実験結果において必要なデータを蓄積しその成果を得るためには、なるべく100%に近い数字となるような環境を整えることが重要であると思われる。敢えてハードルを高くし失敗事例も含め次の研究につながるデータを得ることも必要ではあるが、今後実証試験を行う際には、できる限り稼働率を上げて有効なデータを得られるような体制づくりに努めてもらいたい。</p>	<p>【 継続努力 】 平成19年 9月28日 稼働率の低さの原因として、「燃料電池の故障頻度の多さ」、「燃料電池が海外メーカー製だったため、故障時の交渉・部品調達に手間と時間がかかった」点などが挙げられる。安全性を最重要視した事も、結果として稼働率の低下に繋がった。 今後の実証試験参画にあたっては、あらゆる事態を想定した準備・対策を以って、稼働率の向上に努めたいと考えている。</p>

【商工課】

<p>(1)補助金制度の有効な展開について 四日市工業高校での実証試験について、その目的など市民に対してPRや啓発を積極的に行ない説明責任を果たすとともに、例えば、小中学校などの学習教材として当該施設の活用を図り、子供達の先進技術への興味を抱くきっかけづくりを行う等、地元産業の将来の発展に向けて幅広い視点で捉えた施策の展開について検討を行なうこと。</p>	<p>【継続努力】平成19年 9月28日 四日市工業高校における当該事業は平成18年度で終了していますが、別の事業者によって他の実証試験が継続されています。今後は、子供たちに先進技術に触れ、興味を持てるような場を提供するなど、幅広い視点から、地域産業の将来の発展につながるような取り組みに努めます。</p>
<p>(2)補助金対象事業の進捗管理について 燃料電池実証試験の成果については実施期間中におけるデータの取得と分析ということになるため、実施計画に対する進捗状況の確認が必要である。他の実施機関を含めて専門家による報告会を年数回実施しているということであるが、行政側担当者としてもチェックポイントをきちんと定めて確認するとともにスケジュールどおりに事業が実施されているかについて現場での確認を定期的に行なうこと。</p>	<p>【継続努力】平成19年 9月28日 燃料電池実証試験の研究成果については、専門家も含めた報告会により、実施計画に対する進捗状況の確認を行ってきたところですが、市としても、現地確認も含めたチェックを実施していきます。</p>